

この「里山地区」には、薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡も残っています。

みちのく公園ではこの「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかけがえのない里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



ミソソバ

9月22日（土）雨

秋が深まっています！

明日は秋分の日、お彼岸です。「暑さ寒さも彼岸まで」とは、昔の人はよく言ったもの。暑さは去り、今日は冷たい雨です。栗、クルミ、ドングリなど、木の実がたくさん落ちています。

今日の活動では、いろいろな木の实を使いました。まず、栗は「食べる！」。栗拾いをして、茹で栗に栗ご飯。ドングリは森の再生のための苗づくり。最後に、きれいなお花炭をつくりました。

茹で栗！栗ご飯！

秋の里山を歩くと木の実がたくさん落ちています。里山の恵みのひとつです。

今日は、里山を歩きながら栗拾いをして、栗三昧です！



茹で栗



栗拾い



栗ご飯

きれいなお花炭！

栗のイガなどを缶に詰めて、焚火でいぶすと、「炭」になります。きれいなお花炭の意味で「お花炭」と呼んでいます。

今日、里山で拾ったいろいろな山の恵みで、お花炭を作りました。



お花炭

どングリの苗づくり！

里山の樹林を健全に再生していくために、「ゴヨの森」では皆伐更新という手法をとっています。「ゴヨ」とは、伐採した木の根元から出て来る「ひこばえ」のこと、この地方の方言です。

暮らしの中で薪を利用していた頃は、木々を10～20年毎に伐採していました。コナラの切株からは「ひこばえ」と呼ばれる萌芽枝が成長し、再び薪を採ることができたのです。ところが薪を利用しなくなった現代のコナラは大木に育ってしまい、伐採しても「ひこばえ」を出さずに枯れてしまったりします。

里山地区では、みんなで「ドングリの里親」になって、ドングリから苗木を育てて、それを植え付けて、かつての雑木林を再生しています。今年も秋になって、ドングリがたくさん成りました。このドングリを拾って、苗づくりをしました。2～3年間、苗を育てて、森に植えつけます。



ドングリ



苗づくり